

第5学年 道徳学習指導案

2組 計29人 (男子10人,女子19人)

指導者 中熊 信仁

1 主題名 責任を果たして (4-(1) 役割と責任の自覚)

読み物資料「できあがった紙しばい」(自作資料)

2 主題について

(1) 内容項目とその系統

【高学年4-(1)】
身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。

【中学校4-(1)】
自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。

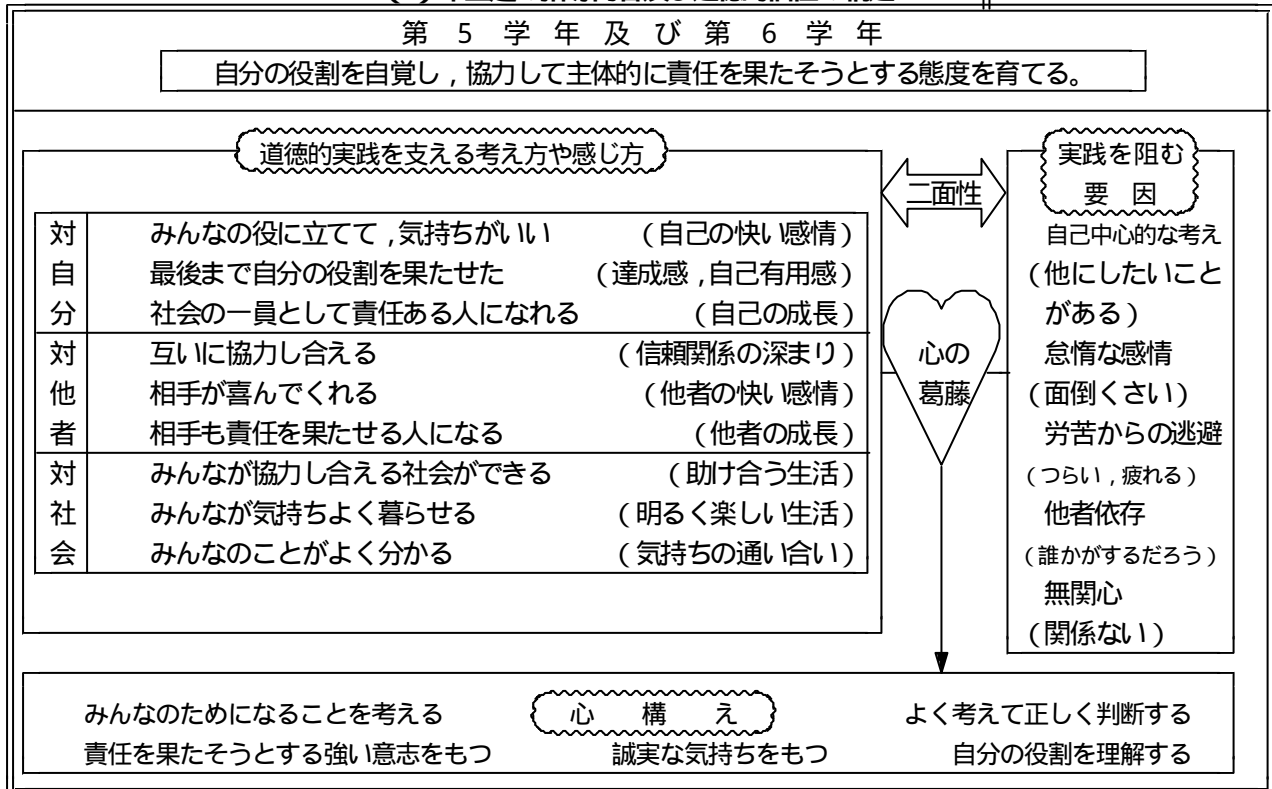
(2) 指導内容についての基本的な立場

「役割」とは割り当てられた役目のこと、「責任」とは人が引き受けてなすべき任務のことである。高学年における「役割と責任の自覚」とは、「身近な集団に主体的に参加し、それらを通して自分の役割と責任を自覚し、役に立つことを成し遂げることによって主体的に責任を果たそうとする」ことであり、よりよい集団生活を送る上で基本となるものである。

この期の子どもたちは、高学年として、クラブ活動や委員会活動、学校行事など、校内の様々な活動において中心的な役割を果たすことが期待されるようになってくる。また、自分の役割や責任に対する自覚が深まり、責任をもって行動したり、友達と協力したりできるようになる。しかし、やるべきことが分かっているにもかかわらず、目の前の楽しさに気を取られ、協力して取り組めないこともある。また、自分の意に沿わないときには、活動意欲をなくしたり、最後まで責任が果たせなかったりすることも見られる。

そこで、本主題では、自分がやりたいことだけをやるのではなく、集団の中での役割と責任を自覚し、どんな役割でもその役割が組織や社会集団を支えていることに気付くようにする。そして、与えられた役割に対して、主体的に責任を果たしたり、みんなで協力したりすることで、そこに自分がいる意味や周りの人が喜んでくれる嬉しさを実感できることに気付くようにする。これらのことにより、集団の中で自分の立場や役割を自覚し、それらを協力して主体的に果たそうとする態度を育てていくことをねらいとする。

(3) 本主題の指導内容及び道徳的価値の構造



(は重点項目)

【役割と責任の自覚に関する「学び」の系統】

身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たすことができる子ども

	道徳性に関する発達	心の弱さ	大切にしたい心構え
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ともによりよく生きようとする考えが出てくる (社会的発達) やるべきことをきちんとやり遂げようとする (責任感の発達) 集団の向上に向けて考えて行動できるようになる (役割認識の成長) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の価値判断に基づき行動してしまう (価値観の画一化) つらいことや面倒なことを回避しようとする (労苦からの逃避) 	<ul style="list-style-type: none"> 責任を果たそうとする強い意志をもつ。 よく考えて正しく判断する。 誠実な気持ちをもつ。 みんなのことを考える。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> 集団の向上をめざした行動をとるようになってくる (自治能力の発達) 集団を形成したり、その集団での行動を大切にしたりする (仲間集団の形成) 自分の行為を振り返って考えることができる (内省能力の発達) 	<ul style="list-style-type: none"> 損か得かを考えて行動してしまう (損得の判断) だれかがしてくれるだろうと頼ってしまう (主体性の欠如) 他人の意見に流されてしまう (主体性の欠如) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分でできることは自分です。 相手や周りのことをよく考えて行動する。 強い意志、責任感をもって行動する。 自分の役割を考える。
低学年	<ul style="list-style-type: none"> しなければならないことができるようになってくる (基本的生活習慣の確立) 他者の立場を認めるようになる (他者認識能力の発達) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のしほいことがあると、そちらに左右される (自己中心性の残存) 自主的より他律的な行動をとりたがる (他律的な考え方) 	<ul style="list-style-type: none"> 強い意志をもつ。 先のことを考えて行動する。 責任感をもつ。

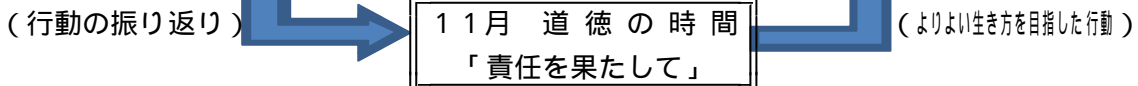
【役割と責任の自覚に関する「学び」の関連】

【事前・事後】

関連する活動 (観点)

- | | |
|---------------------------------------|-------------------------------------|
| 委員会・係活動 (自分の役割を自覚し、やるべきことをきちんと行っているか) | 学習活動 (学習をきちんと行っているか) |
| クラブ活動 (自分のするべきことを、きちんと行っているか) | 家庭での活動 (家族の一員として、協力しているか) |
| 行事 (自分の役割を自覚し、目標達成に向けて取り組んでいるか) | 少年団活動等 (集団の発展に向けて、自分がなすべきことを行っているか) |

【本時】



【本時の「学び」が生かされる道徳の時間】

6月 自分がやるべきことの自覚 (4・ 役割と責任の自覚)

するべきことをきちんとしないとみんなに迷惑がかかるね。 誘惑に負けないことが大切なんだね。

10月 大切にしたいのは (1・ 誠実・明朗)

決めたことはきちんとしないといけない。 よく考えて行動するって大切だね。

1月 (4・ 勤労・社会奉仕、公共心)

自分ができることって何か考えて生きていきたいな。 みんなのために考え、行動し合えばいい社会ができそうだね。 は「学び」を生かした意識

【資料について】

委員会の活動で、紙芝居を作ることになった図書委員会のたけし。活動を始めたころは成功させようとやる気でいっぱいだったが、ドッジボールの決戦にどうしても参加したくて、昼休みの紙芝居づくりをさぼってしまう。放課後、気まずい雰囲気ではあったが、図書委員4人が協力して紙芝居が完成する。1年生が喜んでくれたことに達成感を味わった、たけしたちは「また作ろう」と自分たちの活動に意欲的になるのであった。

3 子どもの実態

(調査人数29人 重複あり H20.9.26)

(1) 本主題に関する経験場面

責任をもって最後までやり遂げた経験	人数
委員会や係、当番など	26
頼まれた仕事、手伝い	5
清掃活動	5
クラブ活動	1
習い事	1

(2) 本主題に関する経験の理由

責任をもって最後までやり遂げた理由	人数
みんなに迷惑がかかるから	10
やる責任があったから	9
相手やみんなのためになるから	8
褒められるから、喜ばれるから	6
その他(よくしたいと思い頑張ったからなど各1)	3

(3) 本主題に関する経験場面

責任をもって最後までやり遂げなかった経験	人数
委員会や係、当番など	10
宿題	8
自分のすべきこと	6
手伝い	4
その他(頼まれた仕事など各1)	2

(4) 本主題に関する経験の理由

責任をもって最後までやり遂げなかった理由	人数
面倒だったから、疲れたから	12
忘れてしまったから	6
他の用があったから	3
遊びたかった、面白そうなおことがあったから	2
その他(恥ずかしかったなど各1)	3

(5) 道徳的価値の意義

責任をもって最後までやり遂げることはなぜ大切か	人数
自分のためになる、心よくなるから	7
みんなのためになるから	6
自分や他の人のためになるから	6
みんなに迷惑がかかるから	4
自分に任されたことだから	3
当然のことだから	3
その他(褒められるからなど各1)	3

(6) 道徳的価値に対する心構え

責任をもって最後までやり遂げるための心構え	人数
みんなのためにという思いをもつ	10
頑張るぞという強い気持ちをもつ	8
自分がやらなければという思いをもつ	6
やった後の気持ちや先を考える	5
自分のためになると思う	4
その他(チャレンジする気持ちをもつなど各1)	5

【考察】

ほとんどの子どもが、自分の役割を責任をもって最後までやり遂げた経験として、委員会や係、当番の仕事を挙げている。その理由として、「みんなに迷惑がかかるから」というものが一番多く、次いで「やらなければならない責任があったから」、「相手やみんなのためになるから」、「褒められるから、喜ばれるから」というものが挙げられている。これは、子どもたちが委員会や係、当番の仕事をする中で、自分が役割を果たさなければ周りに迷惑がかかるということを経験し、みんなのために自分が責任をもってやらなければいけないことを意識するようになったからではないかと考えられる。また、役割を果たしたことで褒められ、それを自分自身の喜びに感じている子どももいるのではないと思われる。

それに対して、委員会や係、宿題、自分がすべきこと、手伝いなどで、責任をもって最後までやり遂げなかった経験もすべての子どもがもっている。その理由としては、「面倒だったから、疲れたから」などという怠惰な感情や労苦からの逃避によるものがほとんどであった。次いで、「忘れてしまったから」、「他の用があったから」などというように、責任を果たそうとする気持ちが十分でなかったり、役割に対する思いが薄かったりする子どもも見られた。

責任をもって最後までやり遂げることの意義については、「自分のためになるから」という自分自身にかかわること、「みんなのためになるから」、「自分やみんなのためになるから」というように自分自身だけではなく、他人、社会や集団の向上にかかわることが挙げられていた。また、責任をもって最後までやり遂げるための心構えについては、「みんなのために」という社会や集団の向上を目指したものが一番多かった。これは、1学期に行った「役割と責任の自覚」の授業前の実態では見られなかったことである。このことから、1学期の授業後、責任をもってやり遂げる際に、自分自身だけでなく、周りの人々や集団、社会のことにまで考えを広げることができるようになりつつあるのではと考えられる。

そこで、本時では、同じ役割でもやり遂げることができたりできなかつたりすることや役割の内容によって敬遠しがちなことがあることに気付き、どんなときでも、自分の役割を自覚し、協力して積極的に責任を果たそうとする態度を育てるようにしたい。

4 本時

(1) 目標

自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たそうとする態度を育てる。

(2) 指導に当たって(研究の視点との関連)

子どもの実態や主題のねらいを踏まえ、次のことに配慮して指導していく。

「気付く」過程において、「自分づくりカード」を基に、1学期の自分と2学期の自分を比べて考えることで、同じ役割でも、時、場合、状況などによって責任をもって果たせていないことがあることに気付き、本時の課題意識を高めることができるようにする。

「見つめる」過程において、子どもたちの実態を基にした自作の読み物資料を活用することで、どの子どもも自分の経験と照らし合わせながら読んだり、主人公の心の弱さや迷い、心地よさに共感したりして、より効果的に道徳的価値に関する見方・考え方・感じ方を話し合うことができるようにする。

「高める」過程において、新たに気付いたことなどを「自分づくりカード」に書くことで、これまでの自分を振り返りながら、考えの広がりや深まりを視覚的にとらえ、更に、学んだことを学校・家庭・地域へと広げていこうとする実践意欲を高めることができるようにする。

過程	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導
(分) 気 付 く (5)	<p>1 「自分づくりカード」を見ながら、自分の役割を果たせた経験や果たせなかった経験について話し合う。</p> <p>自分のやるべきことを最後までやり遂げた経験ややり遂げなかった経験はありますか。</p> <p>運動会で応援団の係に決まってから、白組が勝つために、歌や振り付けを考えて、一生懸命応援したよ。</p> <p>1学期には委員会の仕事を忘れずにしていたけど、2学期になって慣れてきたからか、すっかり忘れてしまうことがあるんだよね。</p> <p>どんなときでも、自分の役割を最後まで果たしていくためには、どのような気持ちや考えが大切だろう。</p>	<p>「自分づくりカード」を基に、以前の自分と今の自分を比べて考えることで、同じ役割でも、時と場合などによって役割を果たせていないことがあることに気付き、本主題についての課題意識をもつことができるようにする。</p>
見 つ め る (25)	<p>2 資料「できあがった紙しばい」を読み、主人公であるたけしの心情を中心に話し合う。</p> <p>(1) 話し合いたい場面を発表し合う。</p> <p>(2) 紙芝居を作ることになったときのたけしの気持ちについて話し合う。</p> <p>自分たちが決めた委員会の仕事だから、責任をもって最後までやり遂げよう。 自分たちで作った紙芝居を読んであげたら、喜んでくれるだろうな。楽しみだな。 みんなのために頑張って、いい紙芝居を作ろぞ。</p> <p>(3) ドッジボールに誘われたときのたけしの気持ちについて話し合う。</p> <p>今日中に紙芝居を作り上げないと困るぞ。自分たちの仕事だから頑張ろう。 喜んでくれるのを楽しみに作ろう。</p> <p>ぼくが行かないと負けてしまう。 ちょっとだけだから。すぐ帰ってこよう。 他の人がやってくれるだろうからいいや。</p> <p>(4) 放課後紙芝居を作っているときの気持ちと次の日紙芝居を読んだ後の気持ちについて話し合い、たけしに足りなかった心構えについて考える。</p> <p>昼休み遊んでしまったからその分頑張らないと。やっぱり遊びたいのを我慢するべきだったな。 1年生がこんなに喜んでくれるなんて。みんなのために自分たちが責任をもつことが大切だな。</p>	<p>子どもたちの実態を基にした自作資料を活用することで、どの子どもも自分の経験と重ね合わせながら考えることができるようにする。</p> <p>自分の経験を振り返ることができるような問いかけを基に考えることで、資料の主人公が責任のある役割を任せられ、やる気と自覚をもち、喜びを感じながら取り組もうとしていることに深く共感できるようにする。</p> <p>主人公が葛藤する場面において、それぞれの考えをグループの中で話し合うことで、互いに道徳的価値にかかわる見方や考え方、感じ方に広がりや深まりをもつことができるようにする。</p> <p>「深める」過程において、新たな資料を提示し、それを基に本時の道徳的価値について考えることで、これまで気付かなかった視点に気付かせ、多様な側面から考えることができるようにする。</p>
深 め る (12)	<p>3 新たな資料を基に、自分を振り返り、自分の役割を責任をもって果たすことの大切さについて話し合う。</p> <p>「みんなの中できみがかがやく」の資料について考えよう。また、それを基に、これまでの自分を振り返り、気付いたことや考えたことなどを発表しよう。</p> <p>確かに、運動会の応援団などの目立つ仕事はよく頑張っていたけれど、目立たない委員会の仕事などは、一生懸命取り組めなかったことがあるな。 受け持った仕事を一生懸命やることに喜びを感じる人になりたいな。</p>	<p>自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たそうとする態度を育てることができたか。</p> <p>【発言ワークシート、自分づくりカード】</p>
高 め る (3)	<p>4 本時の学習を振り返って、新たに気付いたことなどを「自分づくりカード」に書き込み、本主題の道徳的実践意欲を高める。</p>	<p>新たに気付いたことなどを「自分づくりカード」に書くことで、本時の学習で学んだことを、学校・家庭・地域へと広げていこうとする意欲を高めることができるようにする。</p>